評価調査結果要約表

I. 案件概要

- 国名：タイ王国
- 案件名：第3国集団研修「感染症・サーベイランス」
- 分野：医療保健
- 援助形態：第3国集団研修
- 所轄部署：人間開発部第4グループ（保健2）感染症対策チーム
- 協力金額：25,656千円
  （2005年3月現在1バーツ＝2.778円）
- 協力期間：2002年5月～2005年3月 （R/D 2002年5月23日）
- 先方関係機関：タイ国際開発協力事務局（TICA）
- 研修実施機関：タイ王国保健省感染症対策局

1. 協力の背景と概要

メコン地域における深刻なHIV/AIDS及びマラリア問題に対応するためには、該当疾患対策に関わる保健医療従事者への研修を行うことが重要であると考え、我が国は、タイ王国政府と協力し、感染症及びサーベイランスにおける研修コースをタイ王国において企画・実施することになった。第3国集団研修を2002年度から2004年度の3年間に、年1回、中国（雲南省）、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムの各国から参加者を招き、実施している。本研修は、「マラリア予防・対策コース」（4週間）、「HIV/AIDS予防 ・問題軽減対策コース」（2週間）、「サーベイランス・疫学調査コース」（4週間）の3サブコースがあり、各コース1回当たり20名の研修参加者を予定し、英語で実施されている。参加人数実績は、HIV/AIDSコース、マラリアコース、サーベイランス疫学コースが各々43名（2002-2004年度）、48名（2002-2004年度）、20名（2004年度のみ）である。

2. 協力内容

（1）上位目標

メコン地域の人口が一般及び主要な感染症による健康被害から守られる。

（2）プロジェクト目標

メコン地域の研修対象国において適切な感染症対策が実施される。

（3）成果

1. マラリア対策、HIV/AIDS予防・問題軽減のための対策、感染症サーベイランス・疾病発生調査を現場で実施するのに必要な知識・能力が強化される。
2. 研修割当国の間でマラリア、HIV/AIDS、その他の疾患の発生情報が共有、交換される。

（4）投入

日本側：

研修費用負担：総額9,235千バーツ
2002年度 2,509千バーツ
2003年度 2,146千バーツ
2004年度 4,580千バーツ

タイ王国側：

研修運営事務職員

II. 評価調査団の概要

調査者：

JICAタイ事務所、TICA（タイ国際開発協力事務局）、タイ王国保健省

調査期間：

2005年1月14日～3月31日

評価種類：

終了時評価

III. 評価結果の概要

1. 評価結果の要約

（1）妥当性

研修割当国の多くでは、マラリアの罹患率が依然高く、またHIV/AIDSの流行があり、両者とも保健上の大きな問題となっている。移動人口により流行が拡大する国境沿いの主要感染症の対策もメコン地域の大きな課題となっている。各国ともHIV/AIDS及びマラリア対策に関わる保健医療従事者の育成、能力強化を重要視しており、対策において成功経験を有するタイに周辺国からの参加者を招き、該当分野の第3国研修を実施した本案件の妥当性は比較的高いといえる。

（2）有効性

研修生の多くは、研修後も適切な業務ポジションに配置され、研修コースで習得した知識・技術を活用し、積極的かつ適切な該当疾患対策活動を行っていることが認められた。人事異動は少数でありプロジェクト目標の達成に影響を与えることはほとんどないと考えられる。以上のことからプロジェクト目標はほぼ達成していると予想できる。マラリアコースでは、研修前と比較して研修後の試験結果の上昇が認められ、HIV/AIDSコースでは、研修参加者の研修内容の理解度とその活用について十分であることが確認された。以上から期待される成果1（対策に必要な知識・能力の強化）に関する有効性は一般に高いといえる。成果2（疾患の発生情報の共有、交換）については、参加者同志でのコミュニケーションにより情報共有・交換がなされていること、履修カリキュラムにおいてもカントリープレゼンテーション等のセッションでマラリア及びHIV/AIDS等感染症の情報共有・交換が行われていることから、適当なレベルと考えられる。ヘルスケアネットワークの情報を提供するネットワークマネジメントの講義が2004年度に追加されたことも、成果の達成に貢献しているものといえる。

（3）効率性

マラリアコースは、研修参加者ニーズに合った満足できる内容であり、対策に成功した実績を持つタイでの研修で得た知識・技術を現地で活用することを可能にしている。また、近隣国のタイで実施されるため費用対効果が高い。よって本コースの効率性は高いといえる。HIV/AIDSコースは、エイズ対策で成功経験を有しているタイでの実施は適切であると考えられるが、ニーズへの整合性の点ではやや不十分であり、効率性は中等度である。保健省は、中央から県レベルまでの保健省関係者が研修において十分なフィールド調査を提供することが可能であること、様々な関係機関と強いつながりを持っており、感染症対策の実際の活動に関する情報や視察の機会を提供できることから、研修コースを実施するのに適切な機関と考えられる。

（4）インパクト

正のインパクトとしては、研修コース終了後昇進している参加者が何人もいたことがあげられる。参加者は、同僚、関係機関、自国内の他地域の関係者に研修で得た知識を広めており、また、参加者の帰国後の活動により、いくつかの所属機関では能力向上が見られた。現在の主要な感染症の蔓延状況は低いものではなく、また、研修によって年間に養成される人材数は各サブコースで一ヶ国当たり1～3名と限界があるため、今後3～4年以内に上位目標を達成するのはやや困難であり、さらに時間を要するものと思われる。

（5）自立発展性

保健省感染症対策局HIV/AIDS・結核・性感染症課では、2004年末に課内に国際研修センターを設立し、国際研修に関する組織機能強化を図っているところである。経済的には、独自で採算をとるためのマーケティング能力が必要であるが、これを除き、実施機関によるコース運営上の、技術的、事務的な問題はみとめられない。

2. 効果発現に貢献した要因

（1）計画内容に関すること

特になし

（2）実施プロセスに関すること

メコン地域のマラリア対策官は、WHOの提唱したマラリア対策プログラム（メコン・ロール・バック・マラリア）を標準とし、それを基にした各国の国家マラリア対策プログラムに従い、対策活動を実施している。同地域にあるタイで計画された研修内容も標準対策としてのメコン・ロール・バック・マラリアに準じており、その内容は研修参加者のニーズに合致したものとして、効果発現に貢献している。研修参加者の帰国後の配置換えが少なかったことが成果1に貢献している。

3. 問題点及び問題を生じさせた要因

（1）計画内容に関すること

本研修は、計画段階において、研修参加者が帰国後、研修で得た知識や強化された能力を活かした対策活動を行い成果をあげることを目的としていたが、本案件にはモニタリングをする仕組みがなかった。終了時評価において、研修で習得した領域の活動の実施の有無についてモニタリングを行った。

（2）実施プロセスに関すること

HIV/AIDSコースに関しては、各国によってHIV/AIDSの流行状況、対策方針の多様性が、カリキュラムデザイン時に研修内容を広範囲にし、ニーズのそれぞれ異なる各国の参加者の満足度を下げている大きな原因となっている。タイを除き参加者の英語力に適切な判断基準がないこと、募集から締め切りまでの期間が短かったこと等、参加者の選考に係るプロセスに改善の余地がある。

4. 提言及び教訓

（1）提言

同様のコースを最低3年間継続する場合は、持続性の観点から実施機関がマーケティングを強化するか新たに予算を確保することが望まれる。研修成果を確実なものにするために、研修プログラムの中にあるいは研修とは別の予算で別途モニタリングやフォローアップの機能を追加する。研修で得られる知識・技術の普及を強化・促進するために、第3国研修は研修割当国における他のスキームとの連携を考慮すべきである。例えば、JICAあるいは他ドナーによる各国の国内研修の指導者となる者を対象に、タイにおいて指導者研修（TOT）として第3国研修を実施する。研修割当国における国内研修では、TOTの講師であるタイ人専門家を研修割当国に派遣していくことも一案である。HIV/AIDSコースについては、多様化する各国のニーズに合ったカリキュラムデザインをする。各国共通にならない内容のものは、無理に取り込むことはせず個別の案件で対応することも検討する。

（2）教訓

研修効果を上げるために、研修割当国のJICA事務所や関係機関等で試験を実施する等、参加者の英語力を判断するシステムを作るべきである。参加者の適切性の判断について参考となるよう、研修割当国で実施されている感染症分野のJICAプロジェクトや専門家を活用し候補者を検討の上、研修割当国のタイ大使館が指定する担当窓口に情報を提供する。